



The Revolution that Made America Free Chloe Elizabeth Naylor

Everyone from all walks of life recognize The United States of America as being one of the most free, ambitious, and prideful countries in the world. A democracy founded on the hopes, dreams, and sacrifices of its people, but how exactly did we get here? How did America become what it is today? It all started with a revolution against our oppressors, leading to our emancipation from Britain, and our most celebrated holiday in America: Independence Day or July 4th.

The time was around the late 1760s and early 1770s, when tensions peaked between colonial America and the British Parliament in response to rising taxes, increased British authority, and strict British policies. Many colonists protested these tax increases and unjust policies imposed by the British troops such as the Stamp Act of 1765 and the Townshend Acts of 1767 (led to the Boston Tea Party).

Between 1775 and 1776, the Continental Congress came to an agreement that they must break away from Britain. Soon, Britain ceased trade with the colonies. Ports were opened in a statement of retaliation (making way for French assistance) simultaneously, Congress started forming the Declaration of Independence, written by Thomas Jefferson. It was established on July 4th, 1776 announcing the official separation from Great Britain and included the many reasons why they desired independence.

July 4th is a day to remember how one nation came together to protect the rights, liberty, and happiness of their people. We celebrate America's most courageous act with family, friends, and even strangers at large celebrations in our community with beautiful firework displays and barbeque events. It's a time to reflect on the sacrifices this nation has made, but also partake in the freedoms and privileges we have now because of those sacrifices.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

「ボストン茶会事件」。大きな転換となった事件ですね。重い茶税に抵抗し、安いオランダ産の紅茶を飲んでいた植民地人。それに対し、無理矢理、東インド会社の紅茶を押しつけるイギリス。抵抗した植民地人は一斉に紅茶をボストン港に投げ入れました。「ボストン港をティーポットにしてやる！」それ以来、アメリカはコーヒー党なんですよ。

7月4日: 米国を解き放った革命 クロイ・ネイラー

アメリカ合衆国が、世界一自由で、野心的で、誇り高い国の1つだとは、あらゆる階層の人が認めるところです。では実際はいかに、夢や希望、犠牲のもとに成り立つこの民主主義にたどり着いたのか。今あるアメリカになったのか。全ては圧政に対する革命に始まり、英国からの解放、最大の祝日、独立記念日「7月4日」へと繋がります。

1960年代後半から1770年代の初期、英国権威の拡大や増税、政策の厳しさに植民地アメリカと英国議会の間で緊張が高まります。植民地人の多くは1765年の印紙税や1767年のタウンゼント諸法(のちにボストン茶会事件につながる)など、英軍押しつけの増税や不当な政策に抵抗しました。

1775年と1776年の間に、大陸議会は英国から独立することで

意見が一致。まもなく英国が植民地との貿易を停止すると、報復として港が開港されます(これがフランスからの援助につながっていきます)。

同時に議会は独立宣言を作り始め、起草をしたのがトーマス・ジェファソンでした。制定は1776年7月4日。正式な独立宣言には、独立に値するだけの根拠が述べられました。

7月4日とは、いかに国が一丸となって国民の権利や自由、幸福を守ったか、に思いを馳せる日です。アメリカで最も勇気あるその行為を、家族や友人、ときには見知らぬ人と共に、地域をあげて、美しい花火やバーベキューで祝います。この国の払った犠牲に思いを巡らせ、その上に成り立つ私たちの自由や特権を分かち合うときなのです。(訳: 宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第161回

単数? 複数?

「はい、ちゃんと腹筋使って、ズ!ズ!」しょっちゅう生徒に注意している複数形のS。彼らを悩ませるこのSが、このたび、世間を騒がせました。そう、国賓として来日したトランプ大統領が放ったこのツイート。

“Much will wait until after their July elections.”

「(関税の話は) 7月の選挙が終わるまで待つよ」。

このelection(選挙)に複数形を表すSが付いていたせいで、

安倍首相が衆参ダブル選挙を考えている!?との憶測が飛び交いました。各紙に取り上げられたこの事件ですが、北海道新聞にいたっては「日本語では敬語の使い方で人の教養を図るが、英語では単数と複数の使い分けがそれにあたる」とまで。これはもしかしたら昔、アメリカの某副大統領が「ポテト」のつづりを間違えたことと関係があるのかな。まあ、今回のトランプ大統領は選挙全般を意味して、ただ複数形にただけだろう、と思います。それにしても、日本人には今一つピンと来ない単数複数の概念ですが、英語では本当に大事です。常に「数えられる名詞」か「数えられない名詞」かをイメージし、数えられる名詞なら、複数形にするべきか、を考えて使います。

そうそう、国内ではカップヌードルはcup noodleと単数形で売られていますが、外国ではきちんとcup noodlesとSが付いています。日本に来て初めてカップヌードルを見たとき、ALTのナタリーは、中に長〜い麺が一本とぐるを巻いているところを想像して笑えたそうです。